

## 「第1回若ツナフェスタ in 井仁」開催

2022年10月23日(日) 10:30-16:30 若者×ツナグバの5団体と広島県山県郡安芸太田町井仁の棚田で初めての顔合わせである若ツナフェスタを開催しました。ここは日本棚田百景にも選出される綺麗なところです。



若者×ツナグバメンバーは、オンラインでは隔月で交流会を行っていましたが、直接会うのは初めてで若干ギャップはありましたが、馴染むのは早く仲間意識が深まったと思います。参加者は若者だけでなく、各団体関係の子どもたちや留学生も一緒です。総勢50~60名が参加しました。若ツナアドバイザーや私たち財団員も一緒に入って楽しみました。

安芸太田町は「韃衆」(空き家を多世代交流の拠点に!棚田の魅力を発信!)の拠点で、彼らが事前に地域の方々と調整し、棚田交流館をお借りして地域を巻き込んだイベントとなりました。自治会長やいにびちゅ会代表にもご参加いただき、お昼は美味しい地元のお米をお釜で炊いていただきました。

事前の打ち合わせで、各団体の役割を決め、それぞれが自分のパートを責任もって担当してくれました。全体の進行を韃衆が務め、「11=ジャック」(山口県の福祉・介護を盛り上げたい! @周南市)が撮影を行いました。開会式の後、地元正音寺住職のお話をお聞きし、「アミーゴやまぐち」(高校生、大学生たちの居場所づくり @山口市)がアイスブレイク



を行いました。参加者全員が4つのグループに分かれての自己紹介ゲームです。「1.好きな食べ物は?」「2.二週間休みがあったら何がしたい?」などを一人一人が話し、最後に一人ずつ質問の番号札を引いて、その人が言ったその質問の答えを他の人が当てるという記憶力を争うゲームでした。当てた人はシールをもらい名札に貼ります。単に自己紹介を聞くよりも、より注意深く

聞いてもらえるのがとてもよく、早くも仲間意識が醸成されてきました。

次に、「グローバル・アバンセ(GA)」(「おとぎ話」で国際交流 @宇部市)と留学生によるマレーシア料理です。各団体から料理の得意な2名が手伝います。料理は、ミーゴレン(焼きそばのようなもの)、マレーシアカレー、それにピサンゴレン(揚げバナナ)で





め後からピリっと効いてきました。どれもとても美味しかったです。

食事が終わると片付けをして、次は部屋に入って環境のトークセッションです。「海岸清掃プロジェクト(海プロ)」(メイド・オブ・ふるさと食育プロジェクト @東広島市)の担当です。ここでは8つのチームに分かれて行いました。「いい環境とは?」「自分が住んでいる地域の課題、その解決策、新たな負荷」について各チームで話し合い発表しました。いい環境というのは人によって感じ方に違いがあり、解決策によって新たな課題が生まれるということを理解しました。海プロは大学生のチームですが、環境に問題意識を持って取り組んでいるので、皆をうまくリードしていました。



最後が井仁さんぽ(クイズをしながらのウォークラリー)です。参加者が事前に6か所にクイズを設け、そこでクイズを解きながら回ります。各拠点には手作りのスタンプが置いてあります。このクイズのヒントは、最初の住職のお話の中にありました。アップダウンの大きい棚田の風景を楽しみながら気持ちのいい散歩でした。このクイズの正解数で得点を競い、閉会式で賞品(井仁のお米)が渡されました。



各団体がしっかり準備してくれていたもので、本当に楽しむことができました。また、お互いを尊重する気持ちも強く、これからも互いに高めあって行ける関係になればいいと思います。

若者×ツナグバは、ここに参加する若者同士を繋ぐ、若者と地域を繋ぐ、そしてここでの活動が広島県と山口県を活性化させる起点となるような、そんな場を構築したいと願っています。(井上)

10/25 付け中国新聞記事に取り上げていただきました(次ページ)。

# 若者の活動活性化へ交流

安芸太田 広島・山口の5グループ



交流会で井仁の棚田周辺のウォークラリーをする参加者

広島、山口両県の五つの若者グループの交流会が23日、安芸太田町中筒賀の井仁棚田交流館であった。各グループを支援するマツダ財団（府中町）が開いた。安芸太田町で空き家を使って多世代の交流事業をし

ヨップをした。

同財団は2017年度から若者の活動をサポートする「若者×ツナグバ」に取り組み、各グループへ30万円を上限に活動費を支援している。グループ間の連携を深め、活動を活性化させる契機にしてみらおうと交流会を企画した。

ている「輔祭」や、東広島市などで海辺の美化に取り組む「海岸清掃プロジェクト」のメンバーたち約55人が参加。交流館周辺を巡るウォークラリーや環境問題について話し合うワークショップ

山口市で高校生と大学生の居場所づくりの活動をしているアミーゴやまぐちの大谷夏輝さん(21)は「他の団体とさまざまな意見交換ができた。今後に生かしたい」と話していた。

(与倉康広)